

# 農林水産政策審議会 第4回総会 議事要旨

I 開催日時 令和7年12月11日(木) 10:30~12:00

II 場所 ラッセホール2階ローズサローン

## III 出席者

### 1 委員

相田 欽司	仮屋漁業協同組合 代表理事組合長
岩城 紀子	Smile Circle(株) 代表取締役
大山 憲二	神戸大学大学院農学研究科 教授
小田 滋晃	京都大学 名誉教授
田沼 政男	兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長
辻村 英之	京都大学大学院農学研究科 教授
都藤 元彦	株式会社都藤商店 専務取締役
中塚 雅也	神戸大学大学院農学研究科 教授
中村 貴子	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授
中山 晋吾	兵庫県農業経営士会 会長
野村 俊彰	兵庫県木材業協同組合連合会 会長
長谷川尚史	京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授
森垣雄一郎	兵庫県農業協同組合中央会 代表理事常務(代理出席)
福永 庸明	イオンアグリ創造(株) 代表取締役社長
藤井 洋一	株式会社神戸新聞社 論説副委員長
渚上由美子	兵庫県女性農漁業士会 会長
新岡 史朗	一般社団法人兵庫県食品産業協会 専務理事(代理出席)
坊垣 昌明	兵庫県土地改良事業団体連合会 副会長理事
堀 豊	吉備国際大学農学部 教授
松波 知宏	株式会社ワールド・ワン 取締役
皆川 芳嗣	(一社)日本農福連携協会 会長理事
安福武之助	株式会社神戸酒心館 代表取締役社長
吉川 和男	ひょうご卸売市場協働ネットワーク推進協議会 副会長

### 2 県

守本農林水産部長、呉田農林水産部次長  
ほか県農林水産部、環境部職員

#### IV 議事次第

##### 1 開会

##### 2 あいさつ

##### 3 議事

ひょうご農林水産ビジョン 2035 答申(案)について

「資料2」により説明

〔 各委員から意見聴取（別紙「主な意見」参照） 〕

##### 4 その他

##### 5 閉会

## 主な意見

### 委員

4ページの農林水産物マップについて、沼島だけにハモがいるわけではないので、別のところにもハモのイラストを置いていただきたい。

19ページのイラストについて、明石海峡大橋を入れてほしい。また、明石市のあたりにタコを入れてほしい。

### 委員

ビジョンとしてはこのかたちで良いと思う。こういうかたちでまとめていただき感謝。但馬牛について、個人的には頭数の指標に着目している。これだけ但馬牛の相場が良い中で、頭数が減っていくというのはなぜだろうと、関係者として非常に重く受け止めないといけないと思っている。みどり認定、就農数などの指標があるが、最終的には人が集まるかどうかということになる。農林水産部だけの話ではなくて、いかに兵庫県を成長させていくかということが前提であり、そこから農業にどうやって引き込んでくるのかという流れになると思う。農業高校についても記載いただき感謝。畜産業は建築・土木分野等とも親和性が高いと思うので、そういった分野から若い人をリクルートできるような施策も重点的に考えていただきたい。若手や女性が増えて家畜市場の雰囲気も変わってきた。農家の子息などが頑張っておられるので、他分野からも人材を確保できるような仕掛けを今後作っていただきたい。

### 委員

元町高架下再開発に関する賑わい創出についてのトークイベントに参加して、皆さん、木材利用や製材に関する興味を非常にお持ちで色々と感じることがあった。自分たちの業界だけでなく、隣り合わせの農林水産業の人達が何をしているのか、包括的な話ができればいいなど、私自身の取組としてやっていく必要があるなど感じた。

### 委員

33ページの環境にやさしい農業の部分。有機農業アカデミー、学校給食の取組は素晴らしいと思う。ただ、保護者を対象とした食農教育に含まれているのかもしれないが、調理、親子料理教室などの視点が必要。調理ができなくて生鮮食品の消費が減っているという部分もあるので、そういった文言もあれば良いと思う。

67ページの都市農村交流について、オープンファームという名称から想像すると、農業者（個人・法人）が都市住民を受け入れて体験させるイメージになるが、地域全体（集落営農、協議会）が主体となっていくことも大切だと思うので、その視点も文言として入ればよいかなと思う。

### 委員

重大家畜伝染病が発生した場合、新たな技術を活用しながらという文言を入れていただき感謝。11月30日に齋藤知事がマガキの問題で赤穂市に来られた。原因究明を期待する。一瞬にして生計が成り立たなくなるという事態になるので、ビジョンの中でもそういう危機管理ということをどこかに入れてほしい。

## 委員

45ページの企業版ふるさと納税、J クレジットなど追記いただいた。木育についても46ページに追記いただいた。ありがとうございます。

## 委員

38ページ、6行目、「市町への伴走支援」へと修正されたが「市町による伴走支援」との違いは？私の思いとしては、全員で、このビジョンを達成していこうという中で、少しここが限定的かなと思った。

## 事務局

「関係機関一体となって」という趣旨は変わっていない。制度上、地域計画の作成主体は市町なので、まだ策定ができていない地域については策定主体である市町にしっかり寄り添って作っていくという意味でこのような表現にしている。

## 委員

この文章の主語は？

## 事務局

県である。

## 委員

産地として儲かる農林水産業。生産から消費までをつなぐフードサプライチェーンを通じた支援をお願いしたい。52ページで異業種連携、66ページで食品企業と連携した新商品開発、70ページでマーケットインの生産体制づくり、68ページではサプライチェーン全体での消費者に対して理解醸成を図ると記載いただいている。これらを一体的に推進していってほしいと考える。

## 委員

食料自給率について、前回の総会で米を増産する農家が増えているということを入れたらどうかと提案したが、県内の農家数や作付面積を見れば楽観的なことは言えないという状況を理解できた。

56ページでは、クマの問題について非常に具体的な策を記述いただいております、非常に心強いと思っています。兵庫の強みである三木の県立総合射撃場についても記述されており、タイムリーだと感じた。国の補正予算でガバメントハンターの人件費が入っていておそらく成立すると思う。実際に導入するか県の判断だと思うが、この問題は今後さらにヒートアップすると思うので、例えば「自治体職員も含めた狩猟者育成の拠点」のような表現が入ったらいいかなと要望させていただく。

## 委員

自然環境の影響で、1次産業はやりにくくなっている。これから農業が変わっていくということがよくわかってよい。

56ページの狩猟について、「関心のある人を対象に、狩猟の意義や楽しさを理解してもらおう」という記述があるが、狩猟は命を奪うことなので、楽しさという表現は必要なのか。狩猟は楽しさではないと思う。消すべき。

## 事務局

事務局で検討する。

## 委員

水の確保という視点の重要性が増している。そのあたりもきちんと記述いただいている。地域アクションプランについて、成果指標でビジョン本体とアンバランスなところがあるので、統一性を持たせるように見直していただきたい。

## 委員

まず2ページの策定の趣旨というところで、農林水産業をつなぐ、水の役割という観点から文章を加えていただいて大変うれしく思っている。

24ページのイラストについて、漁村のイメージを少しでも入れていただきたい。

49ページについて。今年のマガキの問題で、海域モニタリングが非常に重要だと感じたので、維持管理に非常にお金がかかるが、必要な部分はきちんと継続して見ていく必要があると思う。

## 委員

51、52ページ。販路拡大について、神戸ビーフのブランド力は高い。三宮でも外国人が増えてきており、神戸ビーフが食べられる店舗はにぎわっている。神戸ビーフのブランド力を使いながら、いかに他の製品につなげるかなどインバウンド向けの取組について書かれていてもよいと思う。成果指標4、5について、目標値が高いが本当に達成可能な数字なのか疑問に感じた。

## 委員

2ページのところに、兵庫の特性や兵庫らしさについて、しっかり記載いただいた。農林業センサスの中で、基幹的農業従事者の減少スピードが上がっているという指摘があった。センサスの全体の数字が出たことによって、今回の見直しにおいて影響するところがあったのか教えてほしい。ソフトバンクからの森林分野の支援について、具体的な活動写真などがあればよいかなと感じた。

## 委員

農林水産物の生産量減少に危機感を持った。法人経営体が増えていく中で我々として、そういう方々とどのように付き合っていくのがよいのかなと考えている。

70ページにセリの写真を載せていただいている。イメージとしてはよいが、実際は1割もされていない。

安定供給に向けてしっかり役割を果たしていかなければならないと思った。

## 委員

若い人たちを巻き込むため、SNSに上手に発信することが重要。兵庫県公式アカウント「love\_hyogo」のフォロワー数は都道府県の中では上位だが、更新頻度が非常に低い。県民と生産者の距離を近づける意味でもSNSは有効。しっかり発信していったらと思う。

## 委員

マガキのことで、原因を明らかにしなければ対応できないので、お力添えいただきたい。

## 委員

生産者から需要者をつなぐ視点など追記いただき完成度が高くなったと感じている。近年、林業機械価格が高騰している。機械費の減価償却をしていくためには事業地の確保というのは、さらに重要性が高くなっている状況である。木材生産以外にも、森林資源をフルに活用していくということを考えると、やはり高規格林道の整備が今後求められてくると感じている。頑丈な道は、増加している災害時の代替路となるなど、様々な機能を有するので、今後の整備を期待したい。

## 委員

狩猟の楽しさという文言は私もどうかと感じたので、修正された方がいいと思う。

## 委員

持続可能な農業のためには、温室効果ガス排出の削減が重要であると記載いただいた。しかし課題が多く、現場では脱炭素の取組が優先されにくい。基本方向1では、環境負荷を下げる農業や二酸化炭素を出さない農業の方向性をより明確に示すことが重要である。水田のメタン排出削減やJ-クレジットの取組など定性的な目標はあるが、ビジョン達成にはバックキャスト思考を取り入れ、定量的な目標を設定する必要がある。環境ビジョンとの整合性を意識し、環境気候分野の専門的知見を取り入れた検討体制を整えることが望ましい。

## <総括コメント>

## 委員

今後に向けた課題について、3点。ビジョンの制作プロセスはもう少し考えてよいかと思った。地域の意見をどう引き上げるか、多様な方々の意見を反映する方法は検討の余地があるかなと感じた。

2つ目は、生産振興だけでなく、環境や地域のことが三位一体として考えていかなければならない時代に入ったと再認識した。

3つ目は、行政の役割の変化。農業者が大きくなり、扱う分野が広がる中で、行政が何をすべきかということも、今後引き続き考えていきたいなというふうに思っている。

## 委員

3ページに載っているPDCAの図に基づくビジョン作成になっていてとても良い。特にそのAとしての地域アクションプランの説明が新たに記載されてより良くなったと思う。第3章のめざす姿での「すう勢」の説明の仕方は直前まで事務局と議論したが、もう少しわかりやすくないか心残りではある。

未来のあるべき姿を見据えたよい案が構築できたのではないかと考えている。

## 委員

農林水産業を単なる産業振興の対象ではなく、県民の生命、暮らし、環境、地域社会を支える基盤領域として位置付けた極めて意義あるものになっていると思う。

時代の大きな転換点にあって、農林水産政策は、もはや1部局の施策ではなく、県政全体の根幹に位置付けられるべき戦略分野であると考えます。本ビジョンは、まさにその覚悟を明確に示したものになっていると思う。

第3回総会で、担い手への農地集積の停滞、農福連携指標のわかりやすさなどの重要な意見が多数出た中で、いずれも答申案に的確に反映され、より実践的な内容へと深化したと思っております。

パブリックコメントでは、県民の立場から現実的で責任ある提案が寄せられた。これらの声もまた、本答申案に反映されている。

答申は、これで完成ではない。齋藤知事に正式に答申した瞬間からが本当のスタートである。本ビジョンは、実効性なくしては意味を持たない。地域アクションプランの実装、財源の裏付け、部局横断の政策連携、そして、市町村との協働等、これらを統合的に動かす得るのは、まさに知事の責務であると考えます。農林水産業は、もはや守るだけの産業ではなく、環境、防災、福祉、教育、観光、エネルギーと結びついた地域価値創造の中核産業でもある。本ビジョンが挙げる収益性、にぎわい、県民との共創という点はまさに齋藤県政の掲げる方向性とも深く重なっていると考えます。本審議会は、本日の最終審議をもって、この答申を齋藤知事にお預けする。知事におかれては、ぜひこのビジョンを県政運営の最重要戦略の1つとして位置付け、県庁全体での持続的な推進体制の構築に尽力くださることを心より期待申し上げます。

本答申が、兵庫県の農林水産業と農山漁村の未来を切り開く実行の羅針盤、或いは、設計図となることを、強く祈念申し上げます、私の最終総括とする。

本日いただいた意見をもとに、事務局に資料の修正を進めていただくが、修正内容については、私の一任とさせていただきます。

私と事務局で調整した後、1月13日を予定しているが、知事への答申に向け、最終段階の作業を進めていく。